

000005 4 機能要件 014収納管理

項目	枝番	機能名称	決定種別	機能ID	機能要件	実装区分	備考	要件の考え方・理由	※ 注1は標準機能、注2はオプション機能	適合基準日
2. 収納										
2.1. 入金・消込処理										
2.1.10	1	消込処理（共通納税）		0140077	共通納税の消込処理が一括及び個別でできること（退還所得分離課税を含む。）。本税と延滞金をそれぞれの課定に対して消込処理ができること。	実装必須機能		共通納税の対象税目拡大により、地方団体での対応が必要になることから、実装必須機能として定義している。		
	1			0140078	消込処理の結果、集計表が出力できること。	実装必須機能				
	1			0140079	納付情報管理ファイル、納税情報ファイル（納付日ベース）、納付情報ファイル（入金日ベース）の取り込み、管理ができること。	実装必須機能				
	1			新設	納付情報管理ファイル、納税情報ファイル（納付日ベース）、納付情報ファイル（入金日ベース）の取り込み、管理にあたっては、税目・料金番号等により必要な納付データのみを取り込み、管理ができること。また、取り込み後に取り込み対象外のデータをファイル出力できること。	標準オプション機能		共通納税の公金対応に伴い納付情報ファイル等に地方税以外の情報も含まれるようになるため、税務システムにおいて必要な情報のみ取り込みのための要件として定義している。また、取込漏れを防止する観点から、取込の際に不足な情報として取込まなかった情報や何らかの理由で取り込めなかった情報を別ファイル（元ファイルの形式）で確認できることとした。なお、システム対応に限らず税務事業者等によるファイル加工等も想定されるため標準オプション機能としている。	次期改定EtlTAXを活用した公金収納に伴い、eLTAXの共通納税機能コードの取得単位によっては、納付情報ファイル等に税以外の公金に係る納付データが含まれる場合があるため。	令和9年4月1日
	1			0140080	納付情報管理ファイルに含まれる納税者IDから、システム内の納税義務者を特定し、紐づけている通知書番号（指定番号）を自動的に補い、納付情報管理ファイルに含まれている指定番号情報の有無にかかわらず、自動的に補った通知書番号（指定番号）を基に消込処理ができること。	実装必須機能				
	1			0140427	納税者IDによる消込先の特定が行えない場合は納付情報管理ファイルに含まれている指定番号情報を基に消込処理ができること。なお、指定番号情報をもとに消込処理を行った場合は、その旨が把握できること。	標準オプション機能				
	2			0140081	督促手数料の消込処理ができること。	標準オプション機能				
8. その他										
8.1. 収金システム連携										
8.1.3	1	eLTAXとの連携（納付書情報等のアップロード連携）		0140390	納付書ごとに案件特定キー及び確認番号等を採番し、管理できること。	実装必須機能		本機能は、収納管理システムで実装されることを想定しているが、課税システムで実装し、収納管理システムに連携する方法でも差し支えない。詳細は地方税共同機構の仕様書等を確認すること。		
8.1.4	1			0140391	eLTAXにアップロードするアップロード情報ファイル（全件アップロード又は選択アップロード）を作成できること。	実装必須機能		eLTAXで納税者が納付するために必要となる納付書情報をアップロードするためのファイルを作成する。 本機能は、収納管理システムで実装されることを想定しているが、課税システムまたは滞納管理システムで実装されることでも差し支えない。全税目を対象とする。（賦課税目に加え、申告税目における延滞金・加算金等の税額確定分を含む。） eLTAXとの連携（納付書情報のアップロード）方法は以下の3パターンがあり、標準仕様書に影響を及ぼすのは②、③となり、②については8.1.4.、③は8.1.7.に定義している。 <eLTAXとの連携（納付書情報のアップロード）方法> ①画面からの手入力 ②ファイル連携 ③API連携		
8.1.6	1			0140392	eLTAXにアップロード済みのアップロード情報ファイルの内容に変更がある場合（延滞金の発生や共通納税以外のチャネルでの納付など）、変更内容を設定したアップロード情報ファイルを作成できること。	実装必須機能		納付書発行やアップロード依頼とは別のタイミングで、地方団体で納付済みとなった発行済み納付書に延滞金が発生した場合に、eLTAXの情報を最新化するためのデータを作成する。		
8.1.7	1			0140393	APIにより納付書情報登録ファイルを共通納税IFSへ連携・アップロードできること。 「共通納税IFS API仕様書」に記載される機能を実装すると共に必要となるデータを管理できること。	標準オプション機能		本機能の実装にあたってはマイナンバー利用事務系からL000系に連携することになるため、地方団体において「情報セキュリティポリシーガイドライン（令和4年3月版）」を踏まえて情報セキュリティポリシーを見直すことや連携サーバを設置することなどが必要となるため、標準オプション機能として定義した。		
	2			0140470	eLTAXへアップロードを行った後、処理結果検索キーを保持し、納付書情報登録処理結果を取得できること。取得した結果、エラーファイルがある場合、エラーとなった案件及びエラー内容を特定できること。	標準オプション機能		共通納税IFSより出力する「処理結果ファイル（エラーファイル）」は、処理結果検索キー（案件特定キー、確認番号、税目・料金番号）は含まないため、収納管理システムで処理結果検索キーを保持する必要があり標準オプション機能として追加した。		
	3			新設	APIにより納付情報管理ファイル、納税情報ファイル（納付日ベース）、納付情報ファイル（入金日ベース）を共通納税IFSから連携・ダウンロードできること。 「共通納税IFS API仕様書」に記載される機能を実装すると共に必要となるデータを管理できること。	標準オプション機能		共通納税IFSの画面操作による手動での連携・ダウンロードも可能であるため、必須機能ではなく標準オプション機能としている。	次期改定EtlTAXを活用した公金収納に伴い、納付情報管理ファイル、納税情報ファイル（納付日ベース）、納付情報ファイル（入金日ベース）の取得元が審査システムから共通納税IFSに変更となり、同時に共通納税IFSからの取得のためのAPIを提供するため。	令和9年4月1日